



古賀円さん(左端)とのワークショップ

久留米大学文学部産学連携プロジェクト 「はじめてのくるめかすり」

「久留米大学に学び、久留米の街で4年間過ごす、その証しとして久留米絣を知ること、久留米への愛着を増してくれたら」との思いで始まった久留米大学文学部の「産学連携プロジェクト～はじめてのくるめかすり」。

そのきっかけと現在までの活動を文学部の矢野先生、田中先生、神本先生にお聞きました。

「学生達は、ここ久留米で4年間生活するので、久留米のいいところ、文化、伝統など様々なことを吸収して卒業してもらいたい。このプロジェクトでなぜ久留米絣を選んだか?久留米絣は筑後地域の伝統工芸のひとつであり、伝統的な技術やデザインも継承しつつ、現代的な商品も展開していくことで老若男女に愛されている。そのことを学生達にも知って欲しかったんです」と先生方は話される。

同プロジェクトは2015年にスタート。その夏、久留米絣の制作現場を見学しました。田主丸町にあ



左から
久留米大学文学部
国際文化学科
講師 神本秀爾さん
准教授 矢野英子さん
講師 田中優子さん

る松枝哲哉さんの工房「藍生庵」。ここでは、藍がめでの染め、手括り、機織りなど幾つもの工程を経て、久留米絣が出来上がることを実際に見ながら教えてもらいました。



絣を使ったオリジナル商品



絣を使ったオリジナル商品

Kasuri new wave

絣着て、久留米街なかをそぞろ歩き!

2016年6月、同プロジェクトの参加学生は、「はじめてのくるめかすり」のタイトル通り、初めて久留米絣のきものを着て、久留米ほとめき通り商店街の「土曜夜市」の初日に参加しました。当日は、17名の学生達が一番街の「風のおくりもの」に集合し、土曜夜市で賑わう商店街アーケード街をそぞろ歩きました。男子学生の中には「ちょっと恥ずかしい…」と照れていた学生もいたようですが、皆さんの注目を浴び、いい経験になったとのこと。



2016.6 土曜夜市でのそぞろ歩き

久留米絣の オリジナル商品開発に取り組む!

プロジェクトでは、他にも現在制作の現場にかかわる方からのアドバイスを得たり、実際に企画・商品開

～新たな絣に挑戦するヒト・モノを紹介します～

発に携わる方のワークショップを開催したりしました。

久留米絣みらい研究室COPPORART代表の古賀円さん(かすりすと20号で紹介)を講師に迎え、実際に久留米絣の商品開発のアイデアや販路など、より実践的な話をして頂き、学生達は売れる商品づくり、特に同世代の若者にも受け入れられる商品開発を勉強しました。市内絣販売店でのマーケティング、ファッションショーの見学なども良い学びの機会になっています。

構想半年、試行錯誤の中から オリジナル商品が完成! 2017年度には販売に挑戦!

プロジェクトチームのアイデア(小物、装飾品、服、オモチャ系、インテリア)の中から、先ず出来上がったのが、久留米絣を使ったくるみボタン、ガラスやアクリルに絣を貼った小物入れやコースター、写真立てなどでした。現在、試作品をさらにブラッシュアップし、販売ルートを開拓、商品販売に挑戦する予定です。

「学生達が絣の良さを身をもって体験し、自らの商品開発・販売の経験を実社会での活動に活かすことが出来ればと思います。もちろん無理のないカタチで続けられたらいいですね」と先生方は話されます。



十八模様は久留米かすりのシンボルとしてあらゆるシーンに活用していきます。

かすりすと

久留米かすりファン倶楽部季刊誌
vol. 21
春号

CONTENTS

- 1p・Kasuri new wave
久留米大学文学部
産学連携プロジェクト
「はじめてのくるめかすり」
- 2p・絣イベントINFO
}・絣ショップ&カルチャ
- 3p・ジャパンプルー(藍)を求めて
久留米絣を体験する!
- 4p・久留米絣のWEBムービー
・かすりすと会員プレゼント
・絣織元登場 野口織物
野口泰光さん
・地場産くるめ
SHOP INFORMATION

紺 シ ヨ ッ プ & カ ル チ ャ ー

宝島染工 代表 大籠千春さん



オリジナル作品

宝島染工

化学染料を使わず、天然染料のみで染物づくりを通して、染織文化を次の世代に遺して行きたいと15年前、実家のある大木町で開業。大手の外注品を中心に、オリジナル服にも意欲的に取り組んでいらつしやる宝島染工代表の大籠千春さんに染めの世界の話を伺いました。

「古代から伝わる染色技術を今に伝えたくてこの世界に入りました。現在藍染め(インド藍)、草木染のみで制作。OEM(委託制作)を軸にオリジナルも創っています。天然染料を使うことのメリット(カラダに優しいなど)とデメリット(退色など)を理解して頂き、天然の良さを伝えていきたいなと思います」

「短大で染色を学び、その後この世界に飛び込んだ。筑後地方の久留米紺に興味をもち、天然の藍や草木染めの魅力を生活の中に取り入れたいと服を中心

とした商品づくりに励んでおられます。昨年9月には来日したオランダのアーティストとの交流の環として「インディゴシエアリングブルー」プロジェクトに参加、アーティスト達に藍染めや草木染めを指導し、交流を深めました。

「身につけたいな」というリクエストに応えられる作品を適正な価格で！

「OEMとオリジナルの両方手がけていますが、やはりオリジナル性を保ちたいとの思いがあります。同じものを50枚創つて下さいとの注文はありますが、じゃ同じものを5000枚お願いしますと言われても、つくらないでしょうね。」ときっぱり。

工房近くにある展示スペース「武番館」で年1回、10月の第4土日月の3日間オリジナル作品の展示を中心とした「素材市」を開催しています。

洋服の展示、藍染め体験などがあり、一般のお客様から卸屋さんまで幅広いお客様がお見えになるとのこと。

藍と糸、そして異素材との出会いで広がる染めの世界

「これから、服にとどまらず、例えば、木材、紙、インテリアなどを藍染めでやってみたいと思っています。藍染め、草木染めの可能性を異素材で試してみたい、そして後に続く人たちが面白い、やってみようと思えることに挑戦したいですね。」



異素材での染色作品



異素材での染色作品

◎宝島染工さんの展示会

- ・List:(長崎) 3/15~3/20
- ・Qrafts(大牟田) 4/1~4/9

宝島染工

〒830-0405 福岡県三潁郡大木町横溝2068-1

TEL&FAX.0944-33-0935

対応可能時間/9:00~17:00

定休日/日祝日・第1、3土曜日

URL www.takarajimasenkou.com

ジャパンプルー(藍)を求めて久留米紺を体感する！

「インディゴシエアリングブルー」プロジェクト

平成28年9月、オランダから4人の若手アーティストが久留米紺の技術、藍染めの技法を学びに筑後地方に来日しました。

「インディゴシエアリングブルー」とはダッチカルチャー、クリエイティブ・インダストリー・ファンド、在日オランダ王国大使館、オランダ文部科学省(OCW)の協力により実現したプロジェクト名です。今回のプロジェクトメンバーは2つの国の共有する文化遺産を通して工芸文化の発掘が目的で、オランダ国内から選抜されました。

かつてオランダは、日本と同様に染織文化が盛んな国で、羊毛産産から毛織物へと世界を市場として栄えていました。20世紀に入り、デザイン部

門と製造部門が切り離され、特に製造の現場を海外に移したため製造技術の伝承が国内では途絶えてしまったと言います。久留米紺と染色に携わる作家や技術者が交流し、現場体験することで、オランダでの新たな進展を目標に実施されました。受け入れに協力したのは、松枝哲哉・小夜子夫妻(藍生庵)、下川織物、宝島染工の3ヶ所。特に藍生庵では、久留米紺の本藍による藍染め(藍の生業染め)、手括り、手織りなど久留米紺の基本となる工程を2泊3日で体験しました。

また宝島染工での藍染め草木染めの体験、下川織物では分業による斬新なデザインと、手織りの延長としての機械織り作業の体験をしました。

伝統産業を今に活かす筑後のつくりべとの交流はオランダと日本そして筑後を結び、今後も続けられることでしょう。



藍の葉の収穫と



生業をすり鉢ですりつぶす



松枝一家とプロジェクトメンバー

緋イベントINFO

KURUME 緋 EXPO 2017

第20回 久留米かすり 藍・愛・で逢いフェスティバル

日時 2017年3月18日(土)・19日(日) 10:00~17:00

場所 地場産くるめ(久留米市東合川5-8-5)

◇無料シャトルバス運行いたします。

【JR久留米駅前高速バス乗り場】(福岡・小倉方面)~

【西鉄久留米】(0番乗り場)~【KURUME 緋 EXPO 2017】(会場:地場産くるめ)

※両日ともJR久留米9:30始発。午前中は30分間隔で運行

主催 藍・愛・で逢いフェスティバル実行委員会

事務局 久留米緋協同組合 TEL.0942-44-3701

■藍・愛・で逢い広場(出店28企業)

出店ブースでは、久留米緋や和・洋装製品・工芸品小物・手工芸用のハギレ等の品々を特価で販売。

■久留米緋ファッションショー

両日1日2公演 11:30~15:00~

■マルシェ(スイーツコーナー)

出店店舗/シュシュクレープ花畑店・ミチルぱん

■2017 久留米緋 新作発表会

一次審査 18日(土)/二次審査・審査結果発表 19日(日)

出店作品 手織緋部門・機械織部門 緋二次製品部門 約130点

※審査参加頂いた方に抽選で20名様に緋組品進呈!

入場
無料



他、イベント多数。

チクゴノワ Sing J Roy with CKGZ

発売日 2016年12月28日(水) 価格 1,000円+税

福岡県の筑後地方、久留米市に位置する久留米大学の文学部学生有志CKGZ(チクゴズ)が、これまでに地元まつわる多くの楽曲を発表しているレゲエ・シンガー、Sing J Roy 氏の協力を得て制作。久留米緋やとんこつラーメン、焼きとりなどこの地方独自の伝統文化・食文化が歌詞に盛り込まれたユニークなレゲエソング。



岩崎京子・長野ヒデコトークショー

日時 2017年3月18日(土)13:30開演(13開場)

場所 こっぴーとホール(大木町総合体育館内)

心と言葉を育む本〜心温まる作品ができるまで〜
児童文学作家岩崎京子さん(「久留米がすりのうた」)、
絵本作家長野ヒデコさんをお招きしてのトークショー。



お問合せ・申込み/大木町図書・情報センター(TEL.0944-32-1047)

久留米がすりのうた

日時 2017年3月19日(日)17:30開場 18:00~20:00

3月20日(祝)12:30開場 13:00~15:00

場所 久留米シティプラザ 久留米座(久留米市六ツ門町8-1)

原作 岩崎京子(久留米がすりのうた:石風社刊)

脚本・演出 石山 浩一郎

入場料 一般 2,000円 高校生以下 1,000円

(当日+300円)

チケット販売 岩田屋プレイガイド・風のおくりもの・西原系店

※ご来場の方から抽選で30名様に、森山藍工房・風のおくりもの・西原系店から、久留米緋の素敵なプレゼントがあります。また、「かさこじょう」などで知られる児童文学界のレジェンド岩崎京子先生のサイン会も行う予定です。

お問合せ/劇団PROJECTぴあ:石山 090-8355-1575

Actor's Cafe:今村 080-3227-8788



「幸せの黄色」をめざして、
クララ栽培に取り組む女性達!

農業女性グループ「クララハイジ」

「作物によく虫が来るんですよ、防虫のために栽培を始めました。」と語るのは八女市の近藤早苗さん(74)と塚本ちあきさん(67)。お二人とも八女市内の専業農家の主婦。久留米大学文学部の狩野教授から栽培依頼を受け、花づくりに大敵の虫除けになるとの説明に専業農家の主婦5名で栽培を始めました。

クララはマメ科クララ属の多年草、生薬名を苦参(くじん)と言います。

本業の傍ら、クララの栽培に平成19年から実験栽培に取り組み、22年本格栽培をスタートしました。幸いにクララは葉や茎は苦く、イノシシなども食べに來ないとのこと。現在、15アールの畑で栽培されていて、一年草は10~18cmしか伸びないそうで、5年草でやっと収穫を迎えるそうです。



クララは現在、葉を利用した生薬染めが実験的に行われています(茎の部分は和紙の原料として試作が行われています)。近藤さんは「クララの葉は収穫する時期で染まる色が微妙に変わります。黄金色から黄土色まで、開花期の6月頃の葉がよく染まりますね」と話される。クララの生薬染めはハンカチやスカーフとして製品化していこうという動きがあります。

塚本さんは「染色を緋作家の松枝小夜子先生にご指導いただきました。クララ染は天然の色で、カラダにもきついいはず。これから本格的に生産量を増やし、オンリーワン商品として、適正な価格で販売し、その販路も中身を分かって頂くところで販売できるよう頑張りたいと思います。」と話されています。

同グループでは中山間地の農業振興を目指し、そばづくりに頑張っていきたいです。クララは農業振興作物の中でも未知の可能性を秘めています。このクララ染めの黄色いハンカチがやがて農業に従事する女性達の「幸せの黄色いハンカチ」になることでしょう!



▲黄金色に輝く
クララ生薬染め



クララハイジの
塚本ちあきさん(左)と
近藤早苗さん(右)▶

取材協力/クララハイジ、クララ開発研究会

(問) TEL.0943-22-5345(近藤) FAX.0943-22-5987

久留米絣のWEBムービーまでも完成!! 「伝さん〜久留米かすり物語〜」(仮)

久留米絣の創始者、井上伝が現代の久留米にタイムスリップ職人修行中のゆき子との出会いを通して久留米絣の魂がしっかりと21世紀に受け継がれていることを確かめ、去っていく…。全6話からなる短編WEBムービー。

※全編英語字幕がつきます。ぜひ世界中のお知り合いにご紹介をお願いいたします。



かすりすと会員プレゼント

絣織元登場で紹介した野口織物さんの絣の生地(1m・1枚)、宝島染工さんの泥染めのソックス、クララハイジさんのクララ生葉染めのハンカチ、タオルをプレゼント。応募方法はハガキで住所・氏名・年齢・ご希望のプレゼントを明記の上、かすりすと紙面への感想、今後取り上げて欲しい話題などご記入の上、下記の住所へお送り下さい。



※写真はハンカチ
A 野口織物／絣の生地(1m・1枚)2枚1組 6名様
B 宝島染工／泥染めのソックス 3名様
C クララハイジ／クララ生葉染めのハンカチ 3名様
クララ生葉染めのタオル 2名様

応募締切／4月30日(日) 必着

※応募多数の場合、抽選となります。プレゼント当選は発送をもってかえさせていただきます。

※野口織物の絣の生地は選べません。ご注意ください。
クララハイジはハンカチかタオルのいずれをご希望か、ご記入ください。

宛先／〒839-0809 福岡県久留米市東合川5丁目8番5号
地場産くるめ「かすりすとプレゼント」係

絣織元登場 創くる

モノづくりの7割は基本を守り、3割は革新していくと言うのが私の考えです。

「絣というモノづくりは、自分だけの思いだけでは、売れないですね。使い手の気持ちを汲んで創るんです」と語るのは、野口織物の3代目野口泰光さん。

「私のところは、9割以上が問屋さん向けに出荷しています。今日機織りが続けられているのも問屋さんのおかげです。」

野口さんの工房では注文に応じて、春秋用・夏用、冬用と生地の糸の太さや密度を変えて自動織機で織られています。

「デザイナーさんから来る柄をそのまま使うことはほとんどありません。自分なりにアレンジしていきます。いい柄はアレンジ次第で売れるんですね。デザイン案はアイデアが5割ぐらいの仕上がり具合がいい、9割出



この道50年ベテラン織り子さんとともに
後列右 野口織物 野口泰光さん(58)

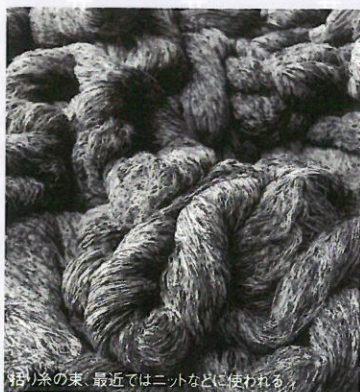


野口織物
〒834-0122
福岡県八女郡広川町一条851
TEL.0942-52-3816

来上がついてると面白くないですね。こちらが遊ばない遊び心で描いた柄が楽しいですね。」

には、売り手の努力も必要ですが、つくり手の研鑽が大事です。大都市圏での絣の評価を自分の目で見ることも大事です。いかにレベルを上げながら、いい商品を創り続けられるかが勝負ですね」と野口さんは話される。7分は基本、3分は革新の心でモノづくりを続けたい、併せて先き染めである絣の良さを主張し、使い手の気持ちを考えた新しい久留米絣を創り続けたいと語っていました。

現在、野口さんの工房にはこの道50年というベテラン織り子さんが3名いらつしやる。野口さん自身も約30年絣に携わっておられる。



結り糸の束。最近ではニットなどに使われる



野口織物の人気の絵絣

地場産くるめ SHOP INFORMATION



絣ポーチ(手さげ・肩かけ両用)

.....11,880円(税込)

珍しいストライプやハート柄の生地を使った絣のポーチです。手さげ・肩かけ両用で、肩かけの紐を外せば、手さげとして使えます。長財布・小物・スマートフォンなどが十分に入るサイズです。春先のおでかけに絣のポーチいかがですか?

地場産くるめ 東合川店

地場産くるめ TEL.(0942)44-3700 FAX.(0942)43-1020
営.10:00~17:00 ※展示即売場コーナーは地場産くるめ2Fにございます。
毎月11日は「いい日地場産の日」開催! 毎月11日は全品11%OFF (一部商品除く)

地場産くるめ JR久留米駅店

地場産くるめ JR久留米駅店
TEL.0942-27-5510
営.7:00~19:00

ふるさとを「頑張る」です!
地場産くるめ
公益財団法人久留米地域地場産業振興センター